平成24年度府中市事務事業点検アンケート結果

【①職種について】

項目名	回答者数	割合	順位
市民	120	71.01%	1
職員	16	9.47%	2
議員	13	7.69%	3
報道	0	0.00%	4
無回答	20	11.83%	—
合計	169	100.00%	

【②お住まいについて】

項目名	回答者数	割合	順位
府中市	120	71.01%	1
東京23区	7	4.14%	4
東京23区外	23	13.61%	2
東京都外	12	7.10%	3
無回答	7	4.14%	—
合計	169	100.00%	

【③年齢について】

項目名	回答者数	割合	順位
～19歳	0	0.00%	7
20～29歳	12	7.10%	5
30～39歳	11	6.51%	6
40～49歳	28	16.57%	4
50～59歳	44	26.03%	1
60～69歳	35	20.71%	2
70歳～	35	20.71%	2
無回答	4	2.37%	—
合計	169	100.00%	

【④事務事業点検を知ったきっかけ】

項目名	回答者数	割合	順位
市広報	71	33.97%	1
市ホームページ	23	11.00%	4
新聞	10	4.78%	6
ちらし	20	9.57%	5
回覧版	9	4.31%	8
構想日本の案内	10	4.78%	6
知人より	25	11.96%	2
その他	24	11.49%	3
無回答	17	8.14%	—
合計	209	100.00%	

※複数回答者あり

【問1 市職員の説明について】

項目名	回答者数	割合	順位
非常にわかりやすかった	9	5.26%	4
わかりやすかった	46	26.90%	2
ふつう	57	33.33%	1
わかりづらかった	33	19.30%	3
非常にわかりづらかった	3	1.76%	6
その他	4	2.34%	5
無回答	19	11.11%	—
合計	171	100.00%	

※複数回答者あり

【問2 点検委員について】

項目名	回答者数	割合	順位
よかった	34	19.77%	3
ややよかった	36	20.93%	2
ふつう	44	25.58%	1
ややわるかった	26	15.12%	4
わるかった	8	4.65%	5
その他	2	1.16%	6
無回答	22	12.79%	—
合計	172	100.00%	

※複数回答者あり

【問3 今後も点検をこの方式で続けることについて】 【問4 ①関心のあった事業があったか】

項目名	回答者数	割合	順位
この方式で続けた方がよい	68	39.53%	1
違う方式で実施した方がよい	48	27.91%	2
事務事業点検はやらなくていい	17	9.89%	3
その他	9	5.23%	4
無回答	30	17.44%	—
合計	172	100.00%	

※複数回答者あり

項目名	回答者数	割合	順位
あった	88	52.07%	1
なかった	4	2.37%	2
無回答	77	45.56%	—
合計	169	100.00%	

平成24年度府中市事務事業点検アンケート結果

【問4 ②関心があった事業】

事業番号	事業名	回答者数	割合	順位
1-1	就学援助事業	7	2.74%	14
1-2	学校図書館指導充実事業	13	5.08%	2
1-3	庁舎等維持管理事業(庁用車管理事業)	8	3.13%	9
1-4	補助金 市民保養施設利用助成事業費	8	3.13%	9
1-5	市民体育大会運営事業	3	1.17%	36
1-6	中央図書館運営事業	9	3.52%	6
1-7	友好都市交流事業	4	1.56%	28
1-8	中小企業補助事業	7	2.74%	14
1-9	補助金 先天性代謝異常健診採血料	2	0.78%	39
1-10	学童クラブ管理運営事業	8	3.13%	9
1-11	景観形成事業	8	3.13%	9
1-12	法定外公共物管理事業	4	1.56%	28
1-13	介護予防推進センター管理運営事業	10	3.91%	5
1-14	地域介護予防事業(介護予防推進事業)	9	3.52%	6
1-15	有料ごみ収集管理事業	15	5.86%	1
1-16	リサイクル推進事業	12	4.69%	3
1-17	健康増進事業	5	1.95%	24
1-18	歯科検診事業(歯の衛生週間検診費)	6	2.34%	17
1-19	障害者自立移動支援事業福祉	5	1.95%	24
1-20	障害者作業委託事業	5	1.95%	24
2-1	広報事業(テレビ広報事業)	6	2.34%	17
2-2	文書管理事務	6	2.34%	17
2-3	奨学資金給付事業	4	1.56%	28
2-4	市民芸術文化祭運営事業	4	1.56%	28
2-5	補助金 公会堂設置費等	9	3.52%	6
2-6	女性活動推進事業	6	2.34%	17
2-7	子ども家庭支援センター管理運営事業	4	1.56%	28
2-8	ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業	3	1.17%	36
2-9	商店街補助事業(補助金 商店街共同施設電気料)	6	2.34%	17
2-10	観光振興事業	4	1.56%	28
2-11	シルバー人材センター支援事業	6	2.34%	17
2-12	老人クラブ補助事業	11	4.30%	4
2-13	公共花壇運営事業	7	2.74%	14
2-14	耐震改修等補助事業	2	0.78%	39
2-15	心身障害者福祉センター管理運営事業	4	1.56%	28
2-16	心身障害者住宅費助成事業	4	1.56%	28
2-17	防災思想普及事業	8	3.13%	9
2-18	まちの環境美化推進事業	6	2.34%	17
2-19	権利擁護センター事業	3	1.17%	36
2-20	入浴券支給事業	5	1.95%	24
合計		256	100.00%	

※複数回答者可

府中市事務事業アンケート自由意見集計

府中市事務事業点検を知ったきっかけ

(その他)

- 市のメール配信
- 市長のメール
- 昨年、市役所で見たから (同 2 件)
- 市内の勤務先で
- 高齢者支援課からの案内
- 府中市老人会連合会及び役員会から (同 2 件)
- 老人会報

1. 説明者 (市職員) の説明についてどう思われましたか？

(非常にわかりやすかった)

- 事業の内容を自信を持って説明していて良かった。
- 老人クラブの友愛活動を 11.1% 会員で行うのは困難になる。
- 内容も丁寧に説明してくれたと感じたため。

(わかりやすかった)

- 方向性・方針について、視点をどう捉えて説明するのか角度が狭いと思った。
- 児童育成の趣旨が伝わる。
- 担当部課による。
- 点検委員の質問に対し、学校の現状を大変よく説明していると思いました。日頃現場をよく理解されていると思います。
- 配布された資料通りだったので。
- 事前の資料整備は大変だったろうが、現状把握のためにはいい勉強の機会だと思う。ただし、基本的に現状肯定的な印象が強かった。
- 一般の人にわかる言葉で話をされた。
- 概要説明・答弁ともにわかりやすかった。
- 2-16「心身障害者住宅費助成事業」のところを見た。課長さんが「施設から地域へ」、「生活保護の一步前のセーフティネット」と強調されていて良かった。
- 説明者が多かったがよく対応した。
- 説明者の方々がどこまで業務の内容、結果を捉えていらっしゃるかわかりやすかった。事業を行うにあたっては、現場に任せられることが多く実態は捉えにくいと思うが、報告書の提出やアンケートなどを実施して、より事業の成果をアピールしていただくことを望みます。

す。

- 担当課によって点検・質問について、説明不足の部署があった。事業に自信を持ってほしい（説明の内容によって評価の変わったものもあると思う）。
- 歯科検診、障害者作業委託事業の議論はとてもまっとうな内容で共感できました。

（ふつう）

- 市民体育大会についての内容をもっと理解してもらう努力が必要。
- 近隣市との比較の資料がわかりやすかった。
- よい事業であることの自信を持って、説明者をもっとアピールした方が良いと思った。
- 具体的内容を把握できていないで、説明席に座っておられるようです。市としての方針や事業の評価をもっと行ってほしい。
- 時間に限りがあるので、全てのことを話すのが難しそうに思う。
- 学校図書事業の補助員の実際の仕事内容が見えづらかった。
- 所管や事業にもよりますが、説明内容の浅さ・深さに差があると感じた。
- はがゆい。もう少しデータを用意できなかったのかと感じた。
- 質問に対する回答にあたっては、論拠を示してほしいと思った。説明材料が少ない。
- 行政に関係して働いてきた方でないとわかりにくい点もあったと思う。
- 事業の全体像がわかりづらい。
- 市議会での質疑と比較すれば、丁寧な説明ではあったが、全体像がすぐイメージできるようなものではなかった。
- 老人クラブの実態がわかっていない回答があり。説明データ不足。説明不十分。
- 老人クラブの活動を他の公共事業との関連を説明する必要がある。加入率11%は誰が聞いても少ないと思う。これをカバーするような説明が必要だった。
- 障害者サイドに立った考え方が必要。
- 事業により差がある。
- 思いが先行して客観的な説明が不足している。
- 人によって大きな差があるが、各個人とともに事業の目的が明確でない事業に当たった職員の説明が（理由がないのに理由を述べるため）わかりづらくなったと考える。
- 整理してわかりやすい説明を。
- 質疑に対して、概ね即答できていた（一部即答できなかった）。
- 健康（歯科）に関わる説明をもっとしてほしいと思った。
- 最初の説明はどうでもいいけど、質問に対する答えは真剣。
- 説明者にとっては良い勉強になったのでは。
- 説明がわかりやすい点もあったが、わかりにくい点もあったので。

（わかりづらかった）

- 質問が散分的。
- 傍聴者にもわかるように説明してほしい。

- 仕事の内容の意味を人に伝えるのは難しいですが、やはり説明できるようにするのは必要。漫然と仕事をしてはいけないなと感じました。
- 現場の様子や具体的な効果、数値を説明できなかった。
- 点検委員の質問に回答できていない。また、逃げているように感じた。
- 委員の質問にきっちり答えていないことが多い。
- 回答が要領を得ない。事業の必要性について、データに基づいて考えることを日頃やっていないためと思われる。
- 議論のポイントが不明。
- 実施していることの一部しか説明できていない。プレゼンテーション力の向上を期待します。
- 各事業の目的の趣旨がわかりづらい上、説明が抽象的すぎるものが多い。資料に他市の例があったが、人口・面積・財政面を考慮した上での比較でないと意味がないのではないか。
- シルバーセンターの運営内容についてわかっていない。シルバーセンターの職員を入れて説明すべきでないか。
- 「説明」と「問い」があっていない。
- 今少し業務の内容を理解して説明してほしい。
- 点検委員の質問に対し、回答が遅いしわかりにくい。
- 目的の明確化。内容の把握。
- 議論がかみ合わない。
- 「資料をご覧ください」と何回か説明にあったが、委員にしか配布されていないようで、わかりにくかった。
- 時間単価等のシルバー事業の詳細が理解できていない。事務費の理解が不明。
- 早口で聞き取りづらかった。
- シートに基づき説明を。市民はその場でシートを見ることになる。
- 音がこもって聞き取りにくい。自信がないのか声が小さい。はっきり答えていたのはコーディネーター、皆さんこの人並みに近づいてほしい。
- 説明者の不勉強が目立つ。交替も必要かも。
- 事前の準備が必要か。
- 内容をよく知らないと思う。

(非常にわかりづらかった)

- 委員が実体を知らない。
- 専門用語の多用。質問に対する回答が的確でないものもあり。
- 明確に答えられていない気がする。

(その他)

- 無駄。

- 担当者によって差がある。平準化（事業説明に一定のレベルにする）の取組みが必要では。
- 健康増進事業は、市民自身が必要に応じて対応をしている。運営としては非常によく機能している。
- 健康に係る市民の関心が高いことに対し、費用についてのみの議論になっていた気がする。
- 課別のたて割りが非常に強い。

（無回答）

- 学校図書事業の補助員の仕事を理解していない。もっといろんな仕事を現場はしています。資料の数が少ない。説得するような内容を提示して欲しい。
- 学校図書の件はよく説明されていた。
- 管理職クラスの職員は市全体の中で該当する事業の位置付け、全体の中でどの部分を担っているのかをもう少し把握し、姿勢に携わっていただきたい。他市との比較ではなく、府中市の中の類似事業との関わりをしっかりと。
- 市の方針に基づき、事業内容・補助率を定めているもので、補助率等の質問は補助金審査会の意図を説明すべきではないかと思いました。

2. 点検委員についてどう思われましたか？

（よかった）

- 他市町村との動きが比較できる。
- 意見、質問内容が的確で理解しやすい発言をされていたと思う。
- 論点のずれる訳の分からない人がいなくて良かった。
- 国の事業仕分け人のように高圧的ではなかった。市民の立場の点検委員がいたので。
- コスト削減という点から質問していたので、非常に分かりやすかった。
- 質問の趣旨が明確。市民からみると…という点が徹底している。
- 色々な観点から質問をしている印象。
- 市民目線と自治体職員目線の双方がバランスよく組み合わせられていると感じた。
- 様々な角度からの的をついた質問がなされていた。
- 質問がわかりやすかった。
- 市民点検委員の質問が要点をついていて、意識が高いと感じた。
- 外部よりの新しい指摘できる点が良い。
- 市民点検委員は、その事業・事務内容の理解が不十分である。そのため、問題点を見出す力がないように思える。
- 障害者についての理解が深く、施設を一事業者として考えての提言に深く感謝する。
- 論点を明確にしている。

- 事前に良く調べているように思えた。
- 多目的に分析するのに大変参考になった。
- 否定的ではなく、前向きな意見が多く参考になる。
- 自治体職員を委員とした点が良かった。
- 昨年は専門の仕分けの方が4人、市民の方が2人でしたが、今年は市民の方が3人、専門の方が2人ということで、より市民の意見を聞く形は良いと思いました。昨年は場合によっては無責任ではないかと思われる発言もありましたが、今年の方々はよく資料などを読み込んでいらっしゃる、良い議論がなされたと思います。

(ややよかった)

- 昨年より市民委員が良く、内容も充実されていて良い。他の方は昨年よりも少し抑えていた。人数枠が昨年より良い。
- 他市の職員の方の意見は参考になった。
- 去年と比べ、市民点検員のレベルが上がっていた。
- 色々な視点を持っている人達だと思いました。
- 市のため、市民のために事業を改善しようという熱意が感じられました。一方、あまりにも攻撃的な発言姿勢になると説明者側の率直な意見の妨げになることもあると思う。
- もう少し他市の先行事例を紹介するなどして、改善への指摘をした方がいい。
- 全体としては多面的な見方からの意見があったと思う。
- 老人クラブの役割を理解していただいた。
- ポイントをついた質問が多かった。
- 課題と思われるところを質問されていた。
- 市民感覚でやってくれている。
- 基本的な考え方が理解できた。社協のあり方を考えてほしい。
- よく勉強していると思った
- 説明不足の中での話が多かった。根拠がなかった。
- 必要性の有無などの的確に質問を行っていたと思う。

(ふつう)

- 十分な理解のないままの回答で、的を外した感じを受けた。
- 事前準備が必要。
- 他の事業との連携という観点は必要。
- 現状を理解していない意見もあった。
- 無理もないことですが、老人クラブの実態がわからない委員の質問が多く、末梢的な議論であった。
- 説明者との会話があっていない。
- 点検委員の方がもっと老人クラブの実際の内容を知るべきである（説明が悪いかもしれない）。このような多くの事業を説明を聞いてだけで判断するのはどうかと思う。

- 他市職員の方が点検委員に加わっていましたが、なぜ委員として参加されているのか。また、その方々は普段どのような担当業務をしているのかを資料にして記述していただくと良かったです。
- 外来用語を使わず丁寧に説明されたい。
- 他市職員、市民委員選出の基準がわからないが…。
- 高齢者への理解が不十分。
- 市民の方の発言が少ないようでした。
- 構想日本の委員はテクニカルな質問が多かった。一概に悪いとは思わないが、他の市民にも意図が伝わるような工夫が必要。
- 市民の総体的な評価はどこへ行くのか。
- 構想日本の職員は入れない方が良い。

(ややわるかった)

- 傍聴者にもわかるよう説明をゆっくりとやさしく説明してほしい。
- まず事業内容をよく捉えないで、又、知ろうとしないでコスト面のみを話していたので。又、学童クラブの中身もよく知っていなかった。
- 各項目について、現状をよく知らないで質問していた。どういう方法で点検員を選んでいるのか疑問に思った。
- 点検委員は点検ありきが先立つ印象で、質問も事業シートの数字等に質問が集中しているように思います。現場をあまり知らない発言が多いと思います。
- 適正な点検、確認すべき点を確認しているようには感じた。
- 事業の落とし所が明確でない。
- 質問や意見が他市の職員に偏っていたように思う。事業仕分けの意義がどの程度共通理解されていたかどうか。
- 課題の踏み込みが不十分。一般市民は、各事業についてそれなりの知識があって当然ではないかと思うが、そうではない例が目立った。
- 内容を良く分析されていないようだ。
- 内容を理解していない。
- あまりにも一般論。
- 実態を知らなさすぎる。
- 第三者としての意見は大切と考えるが、あまりにも市の事を知らない内での話し合いが多かったと思う。
- 特に外部点検委員が知識不足。また、真剣味が感じられない。
- 勉強不足の点があったが、市民の疑問が出ていたところもあった。
- もっと勉強して点検すべき。劣る。ガッカリした。
- 事業について、正当な判断をしていない。委員の思い込みで話を進めている。府中市の現状を理解していない。
- 事業の実態を理解していない。

- 委員の質問、もう少し追求したい処であったろうに説明者が答えられなかった。質問の方向性もこれから。
- 笑い声が多すぎる。態度は良くない。

(わるかった)

- 府中市の状況を知らなすぎて、一面的な行政経費の削減一辺倒の発言に疑問を持った。偏見的な発言は不愉快でした。
- 何もわかっていないと感じた。短い時間で意味があるのか。
- 実状をよく知らない。
- 笑いながら、小バカにした様な態度の方がいた。
- 広く市民のためになるような意見とは思えなかった。優しさのかけらも感じなかった。市民の中からの方には良い意見の方もあった。
- 金にかたよりすぎ。
- 一方的な決め付けで物事を進めている感じがする。
- 事業内容、経緯を十分理解しないまま、コスト削減と「国並」＝上乘せサービス廃止の固定観念から判断している。府中の住みやすさは悪くなるばかりだと思う。

(その他)

- 良く理解していない。

(無回答)

- 理解・知識のないところでの発言がとても気になった。
- 仕分け人の立場上、質問のレベルを上げたら。
- 短時間で処理する必要があるので、基本的な内容は資料に組み込んでおく必要がある。又、他の分野に関しては説明員（主管課）でなく、財政課が答弁すべきと考えます。
- 素朴な質問が多いと思った。
- 隣県の職員に偏った感が否めないです。
- テーマについての実態について理解しているのか。
- 点検メンバーによって評価の分かれるところです。

3. 今後も事務事業点検をこのような方式で続けた方がよいですか？

(この方式で続けたほうがよい)

- まったく関係のない、実情を知らない人が指摘することが良いのです。
- 点検委員の事前の資料に事業の説明をもっと具体的にしたもの渡す必要があると思います。
- もう少し広報した方が良い。
- 事業点検をすることで市の意識が変わると思う。

- ネット中継含めて、開かれた形で市の事業をチェックすることの意義は大きい。
- 一つ一つの事業にかかる時間については、やや自由度があってもよいのかなと感じた。
- 大きなことを炙り出すようで良かった。
- 点検項目はもう少し事業に検討し減らしてはどうか。事業仕分けの目的に合わせて、対象事業として選定した理由が不明なものがあった。資料作りと説明者ご苦労様でした。自己点検と改善改革の意欲をこれからも持ち続けてください。
- 120事業を終わった後、成果のまとめをしっかりとっていただきたい。
- 初めての賛歌なのでよくわからない。
- 市民の主体的参加意識の向上、職員の意識向上と双方にとって有効。他の自治体にも刺激を与える。昨年より良い。
- 公開でやることは良いのではないか。
- 現在の点検では、今後の展望が感じられない。
- 市民が府中市(行政)が行っていることに対して関心を持つきっかけになると思うので。土日実施というのも市民の人々が傍聴しに来やすい曜日だと思うので良いと思います。
- 点検結果のまとめた冊子が出されましたが、それを希望者が自由に入手できるようにしてほしい。
- 事業見直しになるから。
- この方式が現実的。単独事業のみでなく、パッケージでの検討はできないか。
- 収支がわかり、少しでも税金の使われ方を知ることができる。
- 見えた見直し項目に対し、どう対応したか。
- 経過を見ていきましょう。
- 多目的に分析するのに大変参考になった。
- 仕事の流れの中に世の中の動きがきちんと反映されているかは、説明者の態度や声の大きさと判断できる。この機会はおおいに広げた方が良い。
- もう少し実績を積み上げていきたい。
- わかりやすい。
- 市民に事業を説明する機会という意味でも公開で今回のような形で実施することはとても良い。
- もう少しこの方法で続けてみてはどうですか。
- 事務事業点検そのものを点検しては。150万円いるのかどうか。第三者評価を受ける方法の一つとして今後も実施されては。市民委員と識者委員は半々で良い。市民委員がすべての事業を理解することや意見を述べることは難しいが、選任にあたっては広く募集されることを望む。実施にあたって委託料150万円を使ったと聞いているが、もっと税金の使い方を工夫すべきだ。
- 事務事業点検は是非行ってほしいと思います。また、市役所にまで足を運べないお年寄り、障害のある方などのためにも U-STREAM の利用は他市に先駆けて画期的だったと思います。

(違う方式で実施したほうがよい)

- 理解しようと思って傍聴に来ているので、質問できるような配慮をしてほしい。
- 点検員が当市の情状があまりわかっていないため、食い違いがあり、説明者も答えづら
いと思う。
- 去年も書いたが、何故今だに構想日本なのか。独自で良いのでは。
- まず、事業内容を多くの市民に知らせた方が良いと思うから。
- 基本的に質疑、議論を行う方式は良い。ただし、最終的な結論ではないとのことである
が、市の方針を決定する一つの要素になると思うので多数決による評価はどうかと考える。
少数意見も大切な意見と捉え、この点検より得た様々な意見をもとに総合的に市としてど
う考えていくか、職員の方々がそれぞれの事業について「考える」力を養っていけるよう
な仕組みになるとよいと思う。(点検を受けた事業に留まらず、市で行っているすべての事
業について全職員が「考える」を養っていければ、本点検事業の成果だと思う)
- 市民の声をよく聞く機会を設けることと、市の職員が各事業の内容、現状を市民に知ら
せてほしい。
- もう少し宣伝をすべきだと思う。知人に言われるまでやっていること知らなかった。
- 議論が活発(になるように)。
- 市民の立場に立った点検。内容の説明が要。仕分けである必要はない。
- 事業の内容、目的を十分に説明できなければ意味がない。それには時間が足りない。
- あえていえば、老人クラブの実体のわずかでも、一般市民が理解した点があれば効果が
あったとは思いますが。
- 点検委員の論理(で議論が進んでいる)。
- 国の政策を考慮して、生きがいへの理解が不足。
- 単純な事業を複雑な事業(費用の大きさも含めて)と同じ土台に乗せることは進める上
で矛盾が多すぎる。
- 効率のみの評価には反対。知識不足がある。
- 実態を理解していない。
- 対象事業設定へ市民の意見反映を。
- 色々な立場の人選を望みます。
- 点検の結果に強制力を持たせるべきと考えます(せつかくの指摘が先に生きるのか)。
- 政治的判断が反映されていない(例えば、市民の代表である議員を)。
- 構想日本の評価員は「小さな政府」の理念から評価しており、判定が画一的になりがち
になる。市民満足度など多面的な判断が必要だと思う。市民委員も含め、委員の考え方が
必ずしも市民の意志を反映しているとは言えず、行政判断の一資料だとしてもこの方式の
点検自体を仕分けした方がよい。
- 難しいかもしれないが傍聴者も意見を出せるシステムを行う方が好ましいと感じたから。

(事務事業点検はやらなくてよい)

- 今回の事業点検についても、かなり費用を使っていると思いますが、点検委員の現場を

知らない書類的発言を聞くとかえって無駄が多いと思います。事業シートのみでは判断できないことが多いので。

- コスト削減、人員削減、市民への貢献具合（はどう把握しているのか）。自己満足のため！！
- 意味がないように思う。（他市の職員ではマイナスありきの考えのみ）
- 市の実情、事業の実態をわかっている市民が市民の立場から市民のための点検をした方が違和感がない。他市の職員の点検を依頼せずに市内で相互に点検という方法もあるので。
- ムダだ。
- 事業に対する認識が不勉強である。民主の二番煎じ。
- このような方式（国でやったから）は市議会議員が勉強不足と思われるでも仕方がない。
- 必要だが、現状では。勉強不足。
- 外部から、多分有償で点検人を呼んだりするのではなく、広く市民に呼びかけ意見を聞いたりする機会を作ることの方が意義深いと考えるから。第1会場に移り、上記の意見が少しゆらいでもきた。1-19、20に参加したらコーディネーターを含め外部の2名も素晴らしかった。
- このやり方で市民が本当に必要とする声を反映できるのか疑問。
- 効果と成果、金の話ばかりになる。
- 必要ないと思います。

（その他）

- 点検結果が活用されるまでのシステムが確立していれば、続けても良い。
- 周知を徹底してほしい。事業点検という機会があること自体の周知がされていないように感じた。各サービスの利用者など、関係のある人にもっと知ってもらう必要があると感じた。書きやすいペンがほしい。
- 事業成果を見て今後を決めたい。
- コスト面だけでなく、目的等については精査しても良いのでは？
- 市民に関心が集まるような実施方法で。
- 2事業の点検を傍聴したが、民間企業における経験からして、説明側・点検側ともに準備不足。又、この点検を行うのが市議会の役割ではないのか。

（無回答）

- 形にとらわれず、現在の流れでは必要な情報が出てこない。財政課がついていない。基金も説明がない。
- コスト優先になりがち。
- 1件あたりの時間や範囲を広げ、点検委員が事前調査などを行う必要があると感じます。
- 短い時間の為か審査員再度の根本的な質疑が少なく、単なる補助率等に偏っていたように思います。まとめでは、総論的になっていたと思います。

- 説明者は市職員でなく、実際にやっている事業者の責任者が説明にあたった方が実態を説明しやすいと思う。
- 市民点検委員を半日又は1日交替として、より多くの市民が参加できると良いのでは。
- この方法で市民要望の本音がわかるのか。
- 行政の視点と違った側面での意見が聞けたので非常に参考になりました。
- この時間・方式で当該事業の継続や廃止の方向性を決定できるとは到底思えない。ただ、何らかの形で市民がアプローチできる機会は大切であると思う。

5. 事務事業点検の事業の中でご意見・ご感想がありましたらご記入ください。

(1-1) 就学援助事業

- 仕分け人の指摘のように認定基準を1.5倍から1.2～1.3倍に引き下げるべき。
- 義務教育の無償化（憲法26条）を進めるためにも就学援助の充実を図ってほしい。

(1-2) 学校図書館指導事業

- 国立市の司書をしています。新しい教科書の内容では図書館活用が多数記述されています。指導要領を把握し、授業にかなり活用し、学校図書館には専門性のある司書が必要です。20時間では少なく、継続雇用ができるようにしてほしい。
- 「子どもが本好きになっている」ところを説明者がよく説明してほしかった。学校現場の子どもと職員の声を今後もよく聞いてほしい。
- 国の制度、予算が不備な中で司書がいいため、各自治体がやむを得ず始められた事業はさらに充実するか。国に予算を求めていくべきだと思います。
- 事業者側が、もっと明確な事業方針を持ち、事業概要を説明していただきたい。実際の現場の内容をもっと知り、事業効果をはっきり示してほしい。継続雇用の意見には大賛成である。この方が事業の効果が大きい。点検者からのアドバイスをしっかり受け止めてほしい。
- 実際に司書の人と関わっていた身とすると専任の人がいるのでは安心感が子どもにとっては大きく違う。
- 基本的には、継続すべきだと思うが、もう少し各学校の事情を把握し、実情に合った制度にすべきだと思う。
- 配置等において、難しい問題だとは思いますが、子どもを育てていく場であるということが土台であるので、もっと成果はシートに書かれていないところにあり、今後もっと調べてPRしていくべきだと思います。
- 事業開始の平成15年度に中学生でした。「ボランティアでも良いのでは」という話がありましたが、図書館司書としての資格、知識のないその辺のおばさんが貸出業務をするとなると個人情報保護などの観点でかなり問題がある。また、知識を学んでいない方が適正な選書、整理ができるようには思えない。事業が始まる前の図書館について、そもそも司書が入る前の学校図書館は配架も適当（児童が棚に適当に戻すので）で混沌としていまし

た。あるべき棚にあるべき本があるということが、司書が入るまでありませんでした。図書館でなく、ただ本があるという部屋でした。読書活動、学習活動などはよくわかりませんが、図書館に来る生徒は司書が入り、棚が整理された事で利用者は大きく増えていた。効果の把握をすべきという点に賛成です。

●仕分け委員のまとめとして提案された①業務内容の把握と成果、②配置のあり方（2年以上の勤務の検討）、③補助員の入った成果のアピール、④報酬の点について今後検討されることを期待しております。また、配置のあり方、事業の内容把握と成果の調査、成果についてのアピールについての改善となりましたので、市民として今後を見守りたいと思います。

（１－３）庁舎等維持管理事業（庁用車管理事業）

- 一時、点検委員と説明者間で対決関係になっていた。熱い議論のなるのは悪いことではないが、あからさまな敵対関係になると建設的な議論に繋がらないと感じた。
- 市の担当者が事業点検の意義を全く理解していない様子であった。
- 説明者の姿勢がおかしい（説明不十分）。市全部の一括管理対象でないと意味がない。
- 少し感情的になりすぎ。
- 庁内全車両（バイクまで）全て管理部局で取り扱って始めて、維持管理・事務及び車の使用効率、配車・安全対応経費問題がわかり、しいては節税に繋がる。その他、借り上げ車の利用範囲・契約方法等の見直し変更を是非すべきである。

（１－４）補助金 市民保養施設利用助成事業費

- 議論が噛み合っていない。質問の趣旨をすり替えた答弁に終始し、時間の無駄。シートに関連事業についての質問について、所管が異なるので答えられないと平気で言っていたが、そうであればシートに記載している意味がない。
- 府中市の財政力の高さ故、存在している事業
- 廃止してもよい。

（１－５）市民体育大会運営事業

- 最後の資金の話がうやむやになってしまったので、もう少し聞きたかった。

（１－６）中央図書館運営事業

- 図書館の事業はお金を使うばかりで成果が見えない。でもきっと、子どもが大人になった時に成果が見えると私は信じています。
- サービス事業なので難しいと思うが、コーディネーターの方がいわれていた通り明確な目標を立てて事業すべきだと思った。

（１－７）友好都市交流事業

- 無駄に答弁が長く要領を得ない。

(1-8) 中小企業補助事業

- 府中市の財政力の高さ故、存在している事業

(1-9) 補助金 先天性代謝異常健診採血料

- 府中市の財政力の高さ故、存在している事業。「見直しを検討したい」とのことであれば、事業点検の場に出すまでもなく、自主的に見直せばよい。時間経費の無駄。

(1-10) 学童クラブ管理運営事業

- 学童クラブの設置基準、運営の中身などをよく知らない点検委員で評価されていて問題があった。

(1-11) 景観形成事業

- コンサルに丸投げの悪しき事業の典型のように思えた。

(1-12) 法定外公共物管理事業

なし

(1-13) 介護予防推進センター管理運営事業

- 現状をチェックする「チェックリスト」の内容がもう少し年齢を考慮した内容（65～70歳、70～75歳、75歳以上）の如く、細かく分けないと判定できないのではないかと。国の基準ではあるが問題が多い。
- ハコモノを作って高齢者に集まってもらうというのは、介護予防の趣旨にそぐわないのではないかと。地域で介護予防を体験してもらい、自主的、継続的な活動につなげてもらうべき。
- 点検では、一般財源を使って行っている重みについて言及されていたが、介護予防への取組みは40代から始めた方が効果的と考えられ、保育所併設のセンターでもあるので、世代を超えたセンターにしていく考え方もできるのではないかと。
- 不要だと思う。

(1-14) 地域介護予防事業（介護予防推進事業）

- 介護予防事業を課題に用意しすぎているのではないかとという意見も一理あると感じた。非常に評価が難しい事業なので、もう一度市全体の事業を眺めて考えたい。

(1-15) 有料ごみ収集管理事業

- ごみ減量50%（平成25年度）の目標の見直しも必要かもしれない。特に、リサイクル日本一もコスト投入という効果のバランスを考える必要がある。
- 市民へのごみ減量をよくわかるよう説明してほしい。

- ごみに対しては、量の減量>リユース>リサイクルという優先順位があるなら、1-15・16は単独事業でなく、パッケージとして同目的性を検証できると良いと考えた。
- ごみ袋の販売手数量を見直しては。公共施設で販売すれば不要となります。ごみ袋作成費も多摩地区共同で作ればコスト削減となると思いますが、ご検討のほどを。
- 委員の指摘は重要。即ち、平成13年以降のごみ処理費用の総額の推移及び有料化による市民負担の総額をマクロ的に捉えることが必要。
- 委員は、説明者の如き発言に終始。
- ごみ50%削減目標40%に修正が望ましい。
- ごみ減量50%目標のために、無駄なお金をつぎ込むことはあまり良くないので、経費増加にならないように。
- (同感)日本一は取り下げた方がほうが良い。

(1-16) リサイクル推進事業

- リサイクルプラザの管理運営費が高額なのには納得がいかない。人件費と区分した方が良かったのではないか。
- リサイクル率=リサイクル量/排出率と考えると排出量減>リサイクル率増の観点から1-15・16の事業をパッケージで評価した方が効果的と考える(コストを考えると、リサイクル率上昇は必ず同目的とは限らない)。
- なぜ、リサイクルが必要か。リサイクル率が高くなければならないか。その根本の議論が必要。多大な金と手間とエネルギーをかけて再資源化することが本当にエコなのか。
- 点検者の質疑の程度を上げるべき。人選の誤り。もっと基準(本人の資質)をあげるとよい。
- コーディネーターの力量不足。府中市の実態が分かるようリードすべき
- リサイクル自転車、家具、経費がかかりすぎなので見直すべき。

(1-17) 健康増進事業

なし

(1-18) 歯科検診事業(歯の衛生週間検診費)

なし

(1-19) 障害者自立移動支援事業

(心身障害者自動車ガソリン等費用助成事業)

- 「障害者の事を考えるのは当然のことなので」とお話された方が「障害者の方の意見が第一」と言われた方も、第2会場と比べ、障害者理解があり、又、勉強もされている感があり、点検委員の選出などどのようにされているのかと思いました。

(1-20) 障害者作業委託事業

- 福祉的就労という理論でなく、正当な対価としてという議論とても良かった。削るばかりでなく、前向きな改善を。
- 課長さんの「障害があっても共に共生のノーマライゼーションを実現していくため」というくだりが良かった。第1会場の点検人の方々は素晴らしい意見（「公園清掃の仕事の賃金に正当な評価を」、「もっと仕事を探してくるのが福祉部局の務め」）、鋭い意見も多く納得できるものだった。第1会場のコーディネーターが素晴らしかった。2名の外部の方も。

(2-1) 広報事業（テレビ広報事業）

- 議論が噛み合っていない。質問の趣旨をすり替えた答弁に終始し、時間の無駄。シートの関連事業についての質問について、所管が異なるので答えられないと平気で言っていたが、そうであればシートに記載している意味がない。
- この事業今どきどれだけ効果があるのか？やめたらどれだけ困る人がいるのでしょうか。
- 民間を考えても、ターゲットや成果指標が明確でないものなどないはず。また、類似市として調布市を挙げていたが、資料を見る限り、1本当たり、時間当たりの費用は府中の方が2.5倍位ほど高いのではないか？
- PDCAにのっとり、しっかり検証した上で、事務事業を展開した方がよい。「毎年やっているから」今年もやる感が否めない。
- 説明者の態度が良いとは言えない。
- ホームページによる伝達をもっと拡充すべきではないか。議会のテレビ中継はしているか？
- テレビの特性を活かすと繰り返し説明されたが、その根拠がわからなかった。市政情報をどこから入手しているか、何から入手したのかという調査に基づいて、広報紙・ホームページ等との住み分けとすべきであるが、今日の説明からはテレビの必要性は認められなかった。

(2-2) 文書管理事務

- 庁内印刷の委託業務については、偽装職員に注意が必要。（情報漏洩に注意）
- 文書は保存年限に合わせ、マイクロ化して保管。保管場所は災害策を十分に考えた場所に。紙で保管する方法は終わった。
- 書類のデジタル化の徹底が今後の解決策ではないか（事後の検索システムの改善は必要だが）。
- 文書の作成や保存について、全庁的な調査、基準の作成、チェックをすべき。

(2-3) 奨学資金給付事業

- 不用と考えます。国の高校授業料無償と政策がダブる。
- 月額10,500円は妥当かどうか。値上げすべきでは。受給者はボランティア活動するようにお願いをしては。シーズンのある事業としては人件費が多すぎる。査定をする組織

は？

●教育の機会均等と経済的負担軽減を目的とするなら、学力判定は不要。額・対象数とも予算の制約下で不十分（中途半端）なので、全体的な施策の中でメリハリをつけるべき。

（２－４）市民芸術文化祭運営事業

●今後の財政状況を考えれば、各団体が自律的に補助金をあてにしないで、活動すべきではないか。質問にはっきりと答えられないのはいかがか。

●マンネリ（市も市民も）。

●芸術文化の発展という目的を掲げつつ、実態は団体の内輪の盛り上がりで終始しており、公費支出の必要性については疑問。日程をまとめる方が市民に参加しやすい面もあり、市として市民参加を図る意図が感じられない。

●昨年と同じ指摘事項が委員よりありました。改善を考えていない。

（２－５）補助金 公会堂設置費等

●無駄に答弁が長く要領を得ない。

（２－６）女性活動推進事業

●センターのあり方、事業の目的がわかりにくい。女性参画等に繋がっているのか。これはどこの自治体でも同じ。

（２－７）子ども家庭支援センター管理運営事業

なし

（２－８）ひとり親家庭ホームヘルプサービス事業

なし

（２－９）商店街補助事業（補助金 商店街共同施設電気）

なし

（２－１０）観光振興事業

なし

（２－１１）シルバー人材センター支援事業

（シルバー人材センター運営費補助金）

●実際とかけ離れた点検作業でした。

●シルバー人材センターへの登録者が増えるようにという考え方がベースになっての「抜本見直し」という方向が出たのは良かったと思う。

(2-12) 老人クラブ補助事業

- 老人クラブの活性化は、大きな課題であるが、各地域にある文化センター事業やサークルとの関わりも細やかに考えていくことが必要と感じた。
- 点検委員の不勉強。選定基準？（はどうなっているのか）。
- 大胆に見直しを図るべき。どれだけの受益者がいるか分からない。
- 財政困難状況の中で補助を続けるのは問題があるとの考え方が先行しているように感じます。抜本的見直しは厳しすぎます。
- 老人クラブという名称を変えた方がよい。
- 健康・長寿が医療経費削減に寄与している。
- 自治会との連携が必要。今より。

(2-13) 公共花壇運営事業

- 担当者の異動は、市民感覚でやられているのかな。前例にしばられ、新しい可能性を模索しているのか心配
- (2-14)の耐震(に関する事業)を市としてやる(進めていく)のであれば、(この事業)は、見直しをすすめるべき。組合のための事業のように感じた。

(2-14) 耐震改修等補助事業

- しっかりとやってくれそうに感じた。

(2-15) 心身障害者福祉センター管理運営事業

- コーディネーターの考え方がよろしい。

(2-16) 心身障害者住宅費助成事業

- 障害者の方が住宅を探すのがどんなに困難かについて課長さんは、しっかりお話されており好感が持てたが、点検人の方々はそういったことへの理解がどれだけ、おありなのだろうか。障害者の方が生きやすい社会を作ることが行政の、市民のつとめだと思う。「障害の方は手当をもらっているんでしょ」などという意見は許せないと思いました。
- 住宅費補助もよいが、支援者いる心身障害者アパートの施策を考えてはどうでしょう。かつて中野区は、実施していました。住宅提供よりも生活の場の提供の視点が必要では。

(2-17) 防災思想普及事業

なし

(2-18) まちの環境美化推進事業

- 必要をあまり感じない。20日の清掃や自治会などの自主清掃活動の支援は理解できる。駅前喫煙防止のためのおじさんがスルーした人に私は自主的に声をかけました。

(2-19) 権利擁護センター事業

なし

(2-20) 入浴券支給事業

なし

(その他)

- テーブル着席している人がわからない。名札の名前が小さい。
- 市でもいろいろな効率や方法等について、常に見直しして改善していくことが重要だと考えます。多忙の中でレビューは常にしていく仕組みを作っていただきたい。
- 会場に敷いている音声コードの雑な配置に誰も注意していない。市の市フォトはこんなものかと思われても仕方ない。
- そもそも国の事業仕分けをテレビ等で見て関心を持ち、市も同じ事業点検の見直しをやるということで参加しに。